

読みにくい手書きのほうが、よく読まれ、印象に残りやすい。

パソコンには、初めから用意されたフォントがあります。美しく見やすいのですが、ありきたりで面白みがありません。

そこで印象に残りやすくする方法があります。

文字を手書きにしてしまうのです。

手書きのほうが読みにくいのですが「読もう」と意識をするため、印象にも残りやすくなるのです。

普段のプレゼンはなかなか見られないので、印象に残りやすくなります。

美しい文字が印象に残るのではなく「読もう」と強く意識したメッセージが、印象に残ります。

手書き、もしくは手書き風のフォントでもいいでしょう。

はっと驚かせるのです。

聞き手は、魔法にかかったかのように、文字を目で追っていることでしょう。

不思議な話ですが、多少読みにくい文字のほうが、よく読まれます。

文字の美しさばかりにとらわれず、状況によっては、手書きの文字のほうが注意は集まるのです。

ただし、常に手書きがよいわけではありません。

真面目な印象を与える必要のあるプレゼンなら、やはり普通のフォントを使うほうがいいでしょう。

そういう選択肢もあるということで、状況によって活用してみましょう。

見やすいプレゼン資料の作り方 その26

状況によって、手書きで注意を集める。

